

## 前回の反動はどこまで ～米雇用統計

2014年6月2日(月)

今週から6月ということで  
6日金曜日は月一のビッグイベント  
米雇用統計(5月分)が予定されています。

前回4月の雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比+28.8万人と  
2012年1月以来2年超ぶりの大幅な増加を記録する好結果となりました。  
市場予想自体が+21.0万人と、20万人越えの好結果を期待していましたが  
その高めの予想数字をはるかに超える強い数字となりました。  
また、失業率も6.3%と3月の6.7%から一気に0.4%も改善し  
2008年9月以来約5年半ぶりの好結果となっています。

4月末に発表された米第1四半期GDPの速報値が  
+0.1%と小幅増にとどまり米景気回復の鈍化が懸念される中  
雇用の好結果は  
懸念をかなり払拭させる明るいものとなりました。  
なお、米1四半期GDPは  
先週木曜日に改定値が発表され  
弱かった速報からさらに大きく下方修正され  
-1.0%と3年ぶりの縮小を見せる結果となっています。

前回4月分の雇用統計の内訳を確認してみましょう。

建設業が+3.2万人と4ヶ月連続で増加。  
イエレンFRB議長が5月の議会証言で住宅市場の低迷を警戒していましたが  
雇用に関しては依然として好調を保っています。

製造業は+1.2万人と好調。  
速報ベースでマイナスとなっていた3月分の数字も  
+0.7万人と上昇修正されています。  
製造業に関しては  
注目される耐久財が+1.1万人と堅調な数字となったことが  
全体を押し上げています。

サービス業を見ますと、  
人材の流動が激しい小売部門が+3.45万人とかなりの数字をみせ  
雇用統計全体を押し上げました。  
電器関連が1.05万人減と弱めの数字となったのですが  
その他の小売が軒並み好調な数字に。

雇用の先行指数として知られるテンポラリースタッフは  
+2.4万人と3ヶ月連続での大幅増を記録し  
雇用の回復傾向を印象付ける数字となりました。  
同業種を含む専門及びビジネスサービス部門は  
+7.5万人と部門別で最も雇用が伸びた部門となっています。

その他目だったのが  
ヘルスケア&ソーシャル部門の+2.79万人。  
こちらはオバマケアなどの影響で外来医療が+1.26万人と伸びており  
政策が雇用に効果を及ぼしていることがわかります。

これらの内訳を見ても  
雇用市場の勢いが印象的です。  
先行指標であるテンポラリースタッフ、  
景況感の変化に敏感な小売などの好結果は  
今回の数字も強めの数字を維持してくるとの期待につながりそうです。

もっとも、流石に前回の数字は強すぎの感もあり  
今回の増加は前回にはいたらなそう。

今のところの予想は+20.0万人と  
大台維持を出来るかどうかという水準になっています。  
5月10日までの週の新規失業保険申請件数が30万人を割り込む  
29.8万件(速報時点で29.7万件)と  
2007年5月以来、約7年ぶりの低水準になるなど  
雇用情勢は5月も好調な情勢を維持していますが、  
雇用統計の計算期間である12日を含む週の同指標が  
32.7万件と、5月で今のところ一番多い数字になっているという  
タイミングの悪さも  
前回から比べると弱めの数字予想につながっているようです。

2日のISM製造業景気指数、4日のADP雇用者数、ISM非製造業景気指数など  
関連指標動向を確認してみないとなんともいえないところではありますが  
今回の雇用統計、  
好調維持も、前回ほどの勢いはないといったところに落ち着きそうです。

株式会社インベストックは信頼できる情報をもとに本資料を作成していますが、正確性・完全性について株式会社インベストックが責任を負いません。  
本資料は、情報提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資決定にあたっては、投資家ご自身の判断でなされますようお願いいたします。  
本資料に掲載されている情報の著作権は株式会社インベストックに帰属し、本資料に掲載されている情報を株式会社インベストックの許可なしに転用、複製、複写することはできません。  
© 2014 Investech K.K. All Rights Reserved.